

3 研究内容3について

複式における学習方法の習得

複式学習を進めていく上では、複式の学習方法を児童が身に付けていく必要がある。

代表的な方法として、ガイド学習が行われる。ガイド学習とは、授業の進行から話し合いまで、ガイド役の児童を中心に学習を進めていくことである。

理科の学習においても、間接指導時において、ガイド役の児童が実験・観察の進行状況を把握したり、次の実験・観察を促したりしていく。また、得た事実を黒板に書かせたり、小黒板にまとめさせたりしていく。

(1) 学習の進め方の定着

児童が自力解決するためには、問題解決能力を身に付けていくことが必要である。学習問題をつかむ段階から、まとめまでの一連の過程を習得することにより、主体的な学習活動が展開されると考える。

検証授業の第4学年「水のすがたとゆくえ」においては、前時までには児童一人ひとりが本時の問題を見出し、自分なりの解決方法を考えていたことから、ガイドが中心となって、問題や予想、解決方法を確かめるようにした。

〔ガイドを中心とした進行〕



(2) ガイドの育成

間接指導時により効果のある授業を展開するためには、ガイド学習を充実させていく必要がある。本学級では、ガイドを輪番制で行っており、各教科、だれもが体験を通して授業を進行していくことができるようになることを目指している。

検証授業では、あまり重点を置かなかった第3学年「明かりをつけよう」において、間接指導時にガイド役の児童が実験・観察の状況を把握したり、得た事実のまとめをうながしたりすることになる。そこで、タイムスケジュールを具体的に記し、ガイドはそれをたよりにしながら、授業を進めていった。

〔ガイドによる授業の進行〕

